



## 何のために新聞を作るのか

ひとつのキャンペーンだけではなくずっと組織化を続けようと考えているのなら、月刊など定期的に発行される職場の新聞を始めることを考えましょう。ソーシャルメディアに支配された今の世の中でも紙媒体の新聞は

- **対話のきっかけになります。**「やあ、これ見た? どう思う?」
- **職場で労働組合の力を目に見えて示す手段**となります。仲間たちは管理職の権限に疑問に思うのは自分たちだけではないと気づきます。ある人がもうひとりに向けて「ちょっと、これを見てみてよ」と声をかけるようになります。
- **経営側に圧力をかける手段**となります。上司の行動を白日の下にさらすことは、経営側にとってプレッシャーにもなります。新聞に対する経営側の過剰な反応を見ればそれはわかります。
- **情報と議論の場**となります。新聞は経営側をこっぴどく批判したり、他の部署や会社の外で起こっていることを広く知らせたり、労働組合に対する批判や提案を寄せることができます。
- **コーカスの声**になります。運営がうまく行っていないローカルの場合は、一般組合員が発行する新聞が何が起こっているかを知らせる唯一の情報源であることもあります。
- **参加したくなる活動**となります。新聞の発行はいろんな能力をもった人に仕事を作り出します。情報収集、記事の作成・編集、イラスト、写真撮影、デザイン、レイアウト、配布、資金集めなどです。
- **組織化委員会の顔**になります。多くの人に関わるほど信用性も高まりますし、根強い支持を得られます。匿名の新聞の信用性はさほど高くありません。新聞を出しているグループの中には、各記事に担当者の名前を付記するのではなく、発行に関わった人の名前のリストを掲載することで、多数の集団で作成したものであることを示すものもあります。